

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護過程Ⅱ Process Planning for Care Work Ⅱ		1年	後期1 / 2	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
新井文子	福祉棟2階	初回授業にて説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
在宅で生活している要介護高齢者の実態を各種資料から把握したうえで、要介護高齢者の生活状況を理解し、生活ニーズを捉える。そして、介護過程Ⅰをもとに既習の知識・技術を統合し、事例を用いて在宅介護における介護過程の展開方法を学ぶ。				
授業の目標				
①在宅で生活している要介護高齢者の生活状況を説明できるようにする。 ②在宅生活に必要な社会資源を列挙できるようにする。 ③情報を整理し生活ニーズを捉え、明記できるようにする。 ④利用者の望む生活を重視した介護過程を展開できるようにする。				
授業の方法				
演習科目であるが、講義も併用し、視聴覚教材や事例を用いる。事例検討では、個人ワークをもとにグループワークによりまとめ、発表会をおこなう。				
学習の成果（学習成果）				
在宅で生活している要介護高齢者の生活ニーズを捉え、個別性のある介護計画を立案することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって） 視聴覚教材「こんにちは ホームヘルパーです」 在宅介護の実際を知る（レポート1 提出：1週間後）			
第2回目	在宅で生活する要介護高齢者の理解① 各種資料からの理解、要介護状態の理解			
第3回目	在宅で生活する要介護高齢者の理解② 要介護高齢者および介護の特性			
第4回目	在宅における介護の視点① 在宅介護と施設介護との同違点			
第5回目	在宅における介護の視点② 生活領域の拡大を図るための視点（訪問介護に求められること）			
第6回目	在宅における介護の視点③ 情報収集とニーズ			

第7回目	在宅介護支援体制 社会資源について	
第8回目	介護過程の基本と展開 既習学習を事例により復習する	
第9回目	要介護者と在宅生活① 視聴覚教材「折り梅」前半 在宅で生活することの意義（価値・重要性）を考える	
第10回目	要介護者と在宅生活② 視聴覚教材「折り梅」後半 在宅で介護することの意義（価値・重要性）を考える （レポート2 提出：1週間後）	
第11回目	事例検討① 事例による介護過程の展開 個人ワーク	
第12回目	事例検討② 事例による介護過程の展開 グループワーク	
第13回目	事例検討③ 事例による介護過程の展開 発表 （レポート3 提出：1週間後）	
第14回目	事例検討④ まとめ	
第15回目	事例紹介 在宅で生活している要介護高齢者および介護者の事例	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	テキストや資料を持参し自主的にメモしている。 個人ワークを完成させ、グループワークに取り組んでいる。
レポート	40%	1・2：視聴後の学び S：指示された項目について、自己の考えを適切に記述している。 (各10%) 3：事例検討 S：情報から計画までを適切に記述している。(20%)
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	第16回目に試験を実施する。授業の内容を踏まえた記述形式の筆記試験である。（自筆ノート・配布資料の持ち込みを許可する。）
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書 新・介護福祉士養成講座9 第3版 「介護過程」 中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
視聴覚教材、事例検討等を通して、自己の捉え方・考え方を明確にし、口頭や文章により表現できるようにしてほしい。 クォーター科目の後半であり、「介護過程Ⅰ」終了後から始まる。		